

研究所だより

# 教育三笠

第200号 発行/三笠市教育研究所

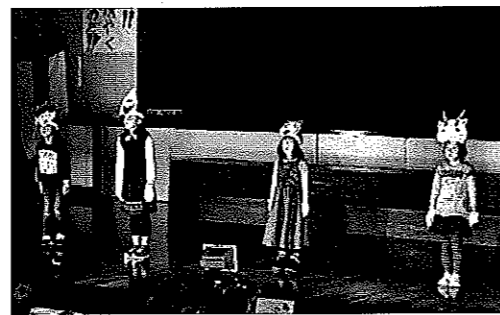
## 岡山小学校



学芸会 6年生 劇「RAKUGO」

小学校最後の学芸会は、昔から親しまれてきた古典落語2作を、劇風にアレンジして演じました。

学芸会 1年生 「はじめのあいさつ」  
初めての学芸会。「妖怪体操第一」で、トップバッターとして、一生懸命にがんばりました。



## レッツ!岡小チャレンジ(選択学習)

『地域の職業体験～武部建設に学ぶ』

◎「職人の技を教わり、ミニ大工になってみよう!」「武部建設にインタビュー、その仕事について知ろう!」という学習の目当てで、木工作品を作ったり、ミニ大工になって家を組み立てたりしました。



初年度は、先進の萱野中・岡山小に習いながらも方向性を模索した1年でした。  
2年前にようやく「3カ年計画」として「学力向上『健全育成』の研究主題をスタートさせ、特に昨年度は、各教科部会での『授業づくりと授業交流』『カリキュラム編成』を主な研究内容とし、研究を進めました。『授業交流』では小中がお互いに授業を見合うことで、児童生徒の様子や雰囲気がかめるようになってきました。また『カリキュラム編成』についても、試行錯誤を繰り返しながら系統性を中心に整理し、一部を作成させることができました。小中のつながりは、確認でき

◆研究主題  
学力向上「基礎基本を習得し、ねばり強い学びの姿勢を身につけるために『健全育成』地域とつながり三笠を愛する豊かな人間性を育成するために」  
◆研究主題設定の理由と経緯  
3年前(2011年度)に4つの小学校と2つの中学校が統合し、三笠小・三笠中の一貫教育が始まりました。統合で集まった三笠の子どもたちは、明るく素直で素朴な子が多い。しかし学力面では、個人差が大きく、基礎的・基本的な知識・技能の習得面に大きな課題が感じられました。このことは、「粘り強く考えたり、取り組みよう」とする学習態度や「課題を解決したり、しつかり身につけよう」とする学習意欲と関係があるように感じられました。

## 三笠小中一貫教育の概要

## 三笠中学校地域科

今年度も、三笠ジオパークを活用し、2年生の地域科で「解説員になろう」をテーマに取り組みしました。市役所のジオパーク推進協議会の方々に協力していただき、ジオの仕組みや解説の仕方などを事前に学びました。今年度は、三笠小学校6年生に対して解説を行い、分かりやすく工夫して解説することを目的に行いました。当日は、小学生にクイズを出したり解説ポイントの移動中に歩きながら歌をみんなで歌ったり小学生を飽きさせないように様々な趣向を凝らして解説していただきました。小中の繋がりが持てるよい機会になったと感じます。来年度も小学校と連携しながら続けていけたらと考えています。

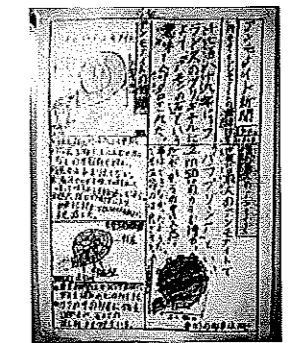


どうまで畑で食べさせてもらいました。この活動で自分たちが住む三笠の農業や工業について関心を高めることができました。4年生は、博物館に行き、化石を見学しながら、学芸員さんの説明を聞きました。興味関心の持ったこと、疑問に思ったことは、自分たちで本やパソコンを使って調べ、それ



を「化石新聞」という形でまとめました。5年生は、例年通り、旧美園小学校の学校田を使って、米作りを行いました。田植えや稲刈りには三笠小学校の他、三笠中学校・三笠高校・教育大学・コムスクボランティアなど多くの方が参加し、皆で力を合わせて作業を進めました。今年度は、好天に恵まれ、これまでにならぬほどの大豊作となりました。春に田を耕してから収穫まで、ほとんどの作業は、地元農家の方の献身的なお世話により成り立つ

ています。心から感謝をいたします。穫れたお米は、関わっていただいた全ての人に配布しました。また5年生の収穫のお祝いでも活用されることになりました。6年生は、三笠の歴史と石炭産業について学習しました。今回の見学では、「そらち炭鉱の記憶マネージメントセンター」の酒井さ



んに詳しいお話を聞かせていただくことができました。また、初めての試みとして、幾春別炭鉱跡地で三笠中学校の2年生が説明する「ジオパーク解説」を聞かせてもらいました。自分たちの2年後の姿と重ね合わせることができたのではないのでしょうか。見学したことは、学習のまとめとして、発表会を開き中学校の地域科へとつなげていく予定です。

課程	時数	内容	実施日
オリエンテーション①	2	概略確認(資料配付) ジオパーク構想解説(下村氏)	10月1日
オリエンテーション②	4	桂沢遊歩道見学 博物館の学芸員さんより詳しい解説を受ける	10月7日
解説練習①～③	5	各コースの学習と、解説員を目指して練習をする	10月9・15・20日
発表会	4	桂沢遊歩道で発表会(三笠小6年生のみなさん)	10月30日

課程	時数	具体的内容
[事前短学活等]	0	①ガイドマニュアル配布
オリエンテーション①	2	①「ジオパーク構想」についてジオパーク推進協議会の方から説明を聞く ②ガイドマニュアル「野外博物館エリア」に従って、推進協議会の方から詳しい説明を受ける ③3つのグループを編成(各グループ13名程度)
オリエンテーション②	4	①博物館で学芸員さんから説明を受ける ②野外博物館エリア(桂沢遊歩道コース)見学(ジオパーク推進協議会の方から解説)
解説練習	5	①自分の担当したコースを、ガイドマニュアルをもとに解説練習
発表会	4	①野外博物館エリアで、三笠小学校6年生を招いて発表会 ②博物館で講評
[事後指導]	0	ジオパーク構想解説員登録

## 編集後記

一面真っ白な雪に覆われ、冬到来となりました。今年の積雪はどうなるのか気になるところです。この数年の記録的な積雪にならないように願っているのは、私だけでしょうか。今号の『教育三笠』では、今年度の「三笠小中一貫教育」の取り組みの様子を中心に掲載しました。担当の方々にはお忙しいなか原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。次号は、研究所の研究課題報告を中心にお伝えする予定です。引き続き教育研究所へのご協力をお願いいたします。

## 三笠市教育研究所所報

発行日 平成26年12月19日  
発行所 三笠市教育研究所  
代表 松井牧子  
三笠市若草町404  
電話 212197番  
印刷所 中央印刷株式会社

ました。同時に課題も見えてきたところ  
今年度は「3力年計画」の3年次にあたり、  
小中一貫教育研究のまとめの年となります。  
「学力向上」をめざした部会では、3力年で  
小中学校における全ての教科を網羅するよ  
うに計画してきましたが、今年はその最終  
年です。共通した認識を進める授業づくり  
と系統性を意識したカリキュラム編成、更  
には基礎基本を中心とした共通の取り組み  
内容の企画推進を中心に引き続き研究を進  
めていく必要があります。

「健全育成」をめざした部会については、今  
年は「道徳」「交流活動」の2部会を開催する  
ように計画しています。中学校では「三中  
の伝統はあいさつ・歌声」を合い言葉に、生徒  
会が中心となりながら活動してきましたが、  
小学校でも児童会主導で「あいさつ運動」に  
取り組んでいました。また音楽発表会、吹奏  
楽、スクールバンドなどで多くの子どもた  
ちが音楽活動にも取り組んでいて、内容で  
す。それぞれ独自で行っていた活動が、小中  
一貫した認識で指導していかると、よりよ  
い効果が望めると思われます。

また、コミュニケーションでは、地域と  
つながりを生かし、ボランティアとして多  
くの方々から支援を受けてきました。内容  
としては、学力向上を  
めざす学習支援をはじめ  
めとして体育活動、音  
楽活動等の学校活動全  
般にわたっています。今  
後も子どもたちのよ  
り充実した学習活動を



児童会主導で「あいさつ運動」に取り組んでいました。

支えていただけるよう  
活動内容・支援の仕方  
について活用を進めて  
いきたいと思います。



「健全育成」に向け、学習指導面をはじめ、それ以外の学校生活全般に関わることで、「小中共同」を図ることは何か「効果的に取り組むためには、どのようにすればよいか」「コミュニケーション」をどのように有効に活用するか」等を模索しつつ、より深く研究を進めていく必要があると考え、本研究会を設定しました。

最後に今後、本研究をより充実した形で  
進めていくためには子どもの実態を多角的  
かつ客観的な観点から継続的に把握してい  
くこと、また、実態に応じてどのように子ど  
もたちを指導していくかを教職員全員が試  
行錯誤しながら追求し、見つけ出し、共に進  
めていくことが大切だと思います。研修を  
進める中で研究内容に変更・追加がある時  
は、研修担当を通してお知らせします。いつ  
でも忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。  
検討し反映させていきたいと考えています。  
小中一貫は、4年目を迎えました。既定路線  
ではない道を一歩一歩進んでいきましょう。

◆3力年計画上の研究の重点  
○望ましい学習態度育成のための実態把  
握・課題点を洗い出し、授業改善のポイント  
などの共通理解を深めながら授業交流、観  
察・研究を行い「学力向上」を図る。  
○授業交流の中から見えてきた生徒指導面  
にかかわる実態把握、改善点、継続すべき指  
導などについて検証し「健全育成」を図る。  
○9年間を見通した、子ども一人一人の個性  
を生かす学習指導と生徒指導の充実を図る。

◆本年度の研究の重点と主な内容  
○授業改善のポイントや指導の観点など、  
小中で共通理解を深めながら「授業モデル」  
に基づいた授業づくりをすすめる。さらに  
国語・算数での基礎基本を身につける取り  
組み内容を実施に向け検討を進めていくこ  
とにより「学力向上」を図る。  
○地域とのつながりを大切にし、地域の力  
を活用しながら、幅広い確かな力を身につ  
けさせる「コミュニケーション」を活用した  
授業づくりを進める。  
○学校生活全般に関わる行事や活動につい

合同部会	1年次 (2012年度)			2年次 (2013年度)			3年次 (2014年度)		
	学力向上	健全育成	特別支援	学力向上	健全育成	特別支援	学力向上	健全育成	特別支援
合同部会	「国語」「算数・数学」「理科」「社会」「英語」「総合・地域科」	「国語」「算数・数学」「図工・美術」「音楽」	「特別支援学級」	「国語」「算数・数学」「体育」「家庭」	「道徳」「交流活動」		「国語」「算数・数学」「体育」「家庭」	「道徳」「交流活動」	
	「特別支援」			「特別支援学級」			「特別支援学級」		
	「特別支援」			「特別支援学級」			「特別支援学級」		
検討委員会	「特別支援」			「特別支援学級」			「特別支援学級」		
	「特別支援」			「特別支援学級」			「特別支援学級」		

て、小中で共通した取  
り組み内容を検討する。  
また、学習支援や困り  
感のある子の交流をは  
じめ、その対応の仕方  
について小中の交流を  
充実させ「健全育成」を  
図る。  
○2年間の授業交流の中から見えてきた児  
童生徒の実態に加え、より多角的客観的な  
視点から実態把握を行い、次の3力年計画  
に向けて目指す方向性について共通理解を  
図る。  
◆本年度の合同部会について  
合同部会 人数 構成 授業公開  
1. 国語 5 (小)低中高学年・(中) ○  
2. 算数・数学 5 (小)低中高学年・(中) ○  
3. 体育 5 (小)低中高学年・(中) ○  
4. 家庭 3 (小)高学年・(中) ○  
5. 道徳 5 (小)低中高学年・(中) ○  
6. 交流活動 8 (小)(中) ×  
○小中で各1本ずつ実施  
△できれば実施(小1中1) ※今後検討  
検討委員会 人数 構成 授業公開  
1. 地域科・総合 2 (小)(中)1名ずつ △  
2. 国際科・英語 2 (小)(中)1名ずつ △  
・検討委員会は、合同部会開催時間に会議  
を持つ。(委員は部会に所属しない)  
・授業公開は交流活動部会以外の5部会で  
行う。(小5本・中5本)



児童生徒の実態に加え、より多角的客観的な視点から実態把握を行い、次の3力年計画に向けて目指す方向性について共通理解を図る。

【今年度の授業公開】

公開授業	12:50 13:15	14:00 14:15	14:45 14:55	15:35
午前中～通常授業	給食	昼休み	5時間目 授業公開	休 全体会 研究会
※地域連携校への研究内容の発表				休 研究協議

教科名	学級	授業者	単元名
国語	5-2	小松 清佳	「漢字の広場⑤同じ読み方の漢字」
道徳	4-1	大沼 靖治	「掃除と日本人」
家庭科	6-1	佐川 昌子	「くふうしよう楽しい食事」

(2日目) 11月27日(木) (会場) 三笠中学校  
13:00 13:15 14:05 14:20 14:45 14:55 15:35

午前中～通常授業	給食	昼休み	5時間目 授業公開 <td>休 全体会 研究会</td> <td>休 研究協議</td>	休 全体会 研究会	休 研究協議
----------	----	-----	--	-----------	--------

教科名	学級	授業者	単元名
算数・数学	1-B	八木橋 毅	「比例と反比例」
体育	1-A	井家 敏昭	「器械運動(マット)」

【事前授業】

日時	教科名	学校・学級	授業者	単元名
11月18日 11時40分	国語	三笠中 2-A	今 美小恵	「漢字の広場④こうブレーにこう奮同音の漢字」
11月18日 14時20分	道徳	三笠中 3-A	戸田 真理	「友情」
11月14日 11時25分	体育	三笠小 4年生	北野 千尋	「ミニバレーボール」
11月20日 10時35分	国際科	三笠小 1年生	高橋 扶美	「いろとかたち」

更に、国際科・地域科  
も可能であれば小1  
中1で行う。  
※例 小・国・算・体・  
家・道・国際科、中・  
国・算・体・家・道・地域  
科  
・7月の合同研修会では、交流活動部会の  
研究経過中間報告の機会を設ける。  
・部会には、管理職にも入っていただきたく。  
・ことばの教室の先生にも、できるだけ合  
同部会参加していただきたい。日程調整  
・交流活動部会は、2つの小部会に分かれ



児童会主導で「あいさつ運動」に取り組んでいました。

て研究を進める。  
※特別支援学級の研究は、振興会が中心に  
なり進めていく。  
※また「困り感」「学習支援」の交流は、交  
流部会の中でコーディネーターを中心に  
進める。(例)中「生徒指導交流研修」や小  
「学級経営交流会」に、小中互いのコディ  
ネーターが出張し合うなど  
◆各部会・検討委員会の主な研究内容  
○「国語」部会、「算数・数学」部会：3力年継  
続3年目  
「授業モデル」に基づいた授業づくりと授業  
交流

国語科で基礎基本を身につける小中の共通  
した取り組み内容の計画・推進  
算数科で基礎基本を身につける小中の共通  
した取り組み内容の計画・推進  
○「体育」部会、「家庭」部会  
「授業モデル」に基づいた授業づくりと授業  
交流  
9年間を見通したカリキュラム編成  
○「道徳」部会  
「授業モデル」に基づいた授業づくりと授業  
交流  
9年間を見通したカリキュラム編成  
○「交流活動」部会(小部会は仮名称)  
「行事・学校生活」小部会  
小中学生が一緒に行い、交流を図ることが  
できる行事や活動を検討する。  
※例：小中合同クイズ作戦：1～3程度  
を企画する。(次年度実施)  
生徒指導や学習規律・家庭学習など、学校生  
活全般に関わることに  
ついて小中のつながり  
を生かした指導内容を  
検討する。(早め実施)  
・特別支援 実態把握  
小部会  
学習支援や困り感のあ



児童会主導で「あいさつ運動」に取り組んでいました。

三笠小学校の地域科は、指導計画に沿う  
形で実践を進めました。3年生は、達布山天  
望台に上った後、渡辺農場でとうもろこし  
の種植え体験をさせてもらいました。作業

三笠小学校地域科

る子の交流をはじめ、その対応の仕方につ  
いて検討し、小中が同様に取組めるよう  
検討する。  
学力テストやアンケートなどのデータを元  
に、児童生徒の実態を把握し、より効果的な  
小中一貫教育となるよう方向性を探る。  
○「地域科」検討委員会  
小3～中2のカリキュラム再編(全体・学年  
小単元)  
※小中地域科の実施状況確認  
※小中へのスムーズなつながりを持てる  
よう  
※中2でめざすもの(最終目標と小3～中  
1でめざすもの)を各自目標  
※新カリキュラムへの移行  
地域科の変化への対応(情報の先取り)  
※時数の変化15→30?  
※学年の変化への対応小3～中2↓小3  
中3へ?  
※教科書作成(構想)  
○「国際科」検討委員会  
指導計画を元に、指導案集改訂(H21年作  
成)に向けての構想と試案作成  
※評価基準・規程も含めて作成  
小学校国際科カリキュラム(既存)の実施状  
況確認：実際の使用語句など  
後には、きゅりをこ馳走になりました。い  
つもは食べない子も一口食べて、その美味  
しさに驚いていました。また桂沢ダムや浄  
水場、飛騨産など三笠の施設や工場も見  
学しました。山崎ワイナリーでは、ワイン作  
りについてのお話を聞き、ぶどう酒用のぶ